

ビール大麦「アスカゴールデン」の良質安定栽培法の確立

要約

ビール大麦「アスカゴールデン」の施肥量を検討したところ、窒素成分 6.5kg/10a が子実重、粗蛋白質含有率とも良好であった。

○ 展示のねらい

当管内で、27 年産（26 年秋播き）から作付拡大予定の「アスカゴールデン」について、収量・品質（粗蛋白質含有率 10～11%）が安定する栽培技術について実証する。

展示内容

区名	播種量	窒素施肥量
5.5kg区	6.5kg/10a	5.5kg/10a
6.5kg区	同上	6.5kg/10a

土壌の種類：表層腐植質多湿黒ボク土(04D)

前作：水稲

播種日：10月31日

基肥肥料：ビール麦ライト002（10-30-20）、土づくり肥料：苦土炭カル60kg/10a

○ 主な成果

表1 成熟期調査

項目	稈長	穂長	穂数	倒伏程度	成熟期
区名	cm	cm	本/m ²		
5.5kg区	84.3	5.6	794	0	5月29日
6.5kg区	87.1	5.9	915	0.01	5月30日

注)倒伏程度:0(無)～5(稈が90度に全面倒伏)

表2 収量調査

項目	子実重	千粒重	外観品質	粗蛋白質含有率
区名	kg/10a	g		%
5.5kg区	515	45.6	中上	8.9
6.5kg区	553	45.9	中中	9.7

注)子実重、千粒重は水分12.5%換算

外観品質:上上～下下の9段階評価

粗蛋白質含有率:水分0%換算。FOSS社 Infratec1241で測定

10a当たりの施肥窒素量 5.5kg と 6.5kg での栽培を比較した結果、5.5kg 区は稈長、穂長、穂数等の生育量が小さくなり、収量、粗蛋白質含有率は低くなった。6.5kg 区は収量、粗蛋白質含有率とも良好であった（表1、2）。

○ 今後の方向性

年度、地域、ほ場条件、肥料の種類による収量、粗蛋白質含有率の検討が必要である。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部

実施場所：矢板市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315